

女性の力は偉大!  
きらり **なでしこ**  
**Power!**

【第1回】

女性ならではの視点で開発された商品・サービス、そして仕事に対する思いをインタビュー



インナーケアドリンク  
「森パルフェ」



【Profile】

定山溪 鶴雅リゾートSPA 森の詞  
執行役員 支配人 松橋 京子 さん

東京出身。東京新聞ショッパー社編集長を務めた後、(株)アンビックス「ホテル甘露の森」のオープンや、「みなかみ高原リゾート200」総支配人として付加価値の高い施設づくりに寄与、平成22年より現職。内閣府地域活性化伝道師。

札幌市南区定山溪温泉東3丁目192番地  
TEL 011-598-2671  
<http://www.morino-uta.com>



靴をぬいでくつろげるロビー

「地域産物の恩恵と  
感動を伝える仕事」

「経営が行き詰った施設に新たな付加価値を付け、蘇らせる仕事」。定山溪鶴雅リゾートSPA「森の詞」の支配人松橋京子さん。はこれまでも、(株)アンビックスの「ホテル甘露の森」のリニューアルや、群馬県のリゾートの再生などを手掛けてきた経歴を持つ。このほか、ニセコや定山溪の観光協会などでも活躍し、地域の魅力発掘にも尽力してきた。森の詞は、札幌市が保有していたホテルを鶴雅グループが買収・改装し、平成二十二年八月に

オープンさせた。  
「森の詞では、コンセプトや施設デザインなど基本的なものはすでに決まっていました。お客さまへの配慮など、自分なりにコンセプトを解釈して夢とストーリーを作り上げていきました」と松橋支配人は語る。

特にこだわったのは、素材の良さを知ってもらうことへの配慮だ。ロビーには、自然の力を肌で感じてもらうように、温泉熱を利用した床暖房を入れ、靴をぬいでくつろげるスペースを作ったほか、ロビー奥にあるバーのカウンター席は、森の景観を見ながらお酒を楽しむよう工夫を加えるなど、北海道の素材を常に大切にしている。

「地域にある産物や文化をうまく融合させ、そのホテルの個性をきちんと出すようなサービス・商品作りを心掛けています。北海道は、空気ひとつ、葉の大きさひとつをとっても感動があります。そういう魅力をお伝えしていくのが私の仕事です」。

ホテルの売店には、オリジナルメニューをはじめ、インナーケアドリンク「森パルフェ」や、珪藻土のご飯釜まで、松橋支配人が地域の特産品を使って市内企業と開発した商品が並ぶ。

「森パルフェ」は、北海道の素材のいいところをぎゅっと濃縮したドリンクです。鮭のコラーゲンと、シーベリー果汁やアロニアなどこだわりの成分を配合し、男性のメタボにも効果があります。最初は「ホテルがなぜ栄養ドリンクを作ったのか」と言われましたが、「と苦笑いする。今では鶴雅グループ全ホテルで販売されている。」

昨年は「ものづくり」を通じた観光のビジネスモデル構築に力を入れてきた。今年はこのほか、アジアの投資家と地域をつなぎ、地域における観光振興のコーディネートに取り組む。  
「仕事はライフスタイルそのものです。多くの方との出会いを通じて学んだ、食、健康、文化などに関わる新しいスタイルを仕事として楽しんでいます」。